

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02203

研究課題名(和文) 嚴復の西洋体験と『天演論』のテキスト形成ならびに清末における受容過程の研究

研究課題名(英文) Research Project on How Yan Fu's Experience of the West Influenced the Process of Producing Tianyanlun (his translation of T. Huxley's Evolution and Ethics), and Reception of this Text in Late Qing

研究代表者

坂元 ひろ子 (SAKAMOTO, Hiroko)

一橋大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：30205778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：トマス・ハクスリーの著作(「進化と倫理 プロレゴメナ」1894年とロマネス講演「進化と倫理」1893年)の訳解にノートを付した嚴復の『天演論』(1898年刊行)は中国近代思想史上、最も影響を及ぼした書籍と目されてきた。しかし、古典を多く引用する古文体のための難解さ、またハクスリー原作が用いた事例を時に中国の歴史におきかえるという独特な翻案方法により、読解には幅広い東西の歴史的、思想史的知識を要求される。大量にわたり引用・言及されている文献をもできうるかぎり究明したこの最初の日本語訳プロジェクトは、広く英語圏そして中国でも期待されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アジアの近代思想史において最も重要な思想として西欧発の社会進化論があり、これがどのように受容されたかを理解することは、現在のアジアの思想状況を理解するうえでも欠かせない作業といえる。最初のヨーロッパ留学生ともいべき嚴復がどのように理解し、どのような当時の情勢分析によってそれをどのように伝えようとしたかを理解することは、学術的に意義深いことは論をまたない。また今日の中国と日本などの摩擦を深く知ることにつながる点で、その社会的意義もまた大きい。

研究成果の概要(英文)：Yan Fu's work Tianyanlun (published in 1898), a translation of Thomas Huxley's writings ("Evolution and Ethics: Prolegomena", 1894, and "Evolution and Ethics: The Romanes Lecture", 1893) into Chinese with long notes, is one of the most influential books in modern Chinese intellectual history. Yan Fu's translation is written in an archaic writing style with many references to the classics. In addition, it makes use of a unique adaptation method that sometimes replaces the examples used in Huxley's original with Chinese ones. Therefore, understanding the text requires a high level of classical Chinese proficiency as well as a wide range of historical and intellectual knowledge of the East and West. This joint project aimed to publish the first Japanese translation of Yan Fu's work based on as much of the cited and referenced literature as possible. Therefore, this project is expected to be of wide interest, not only in Japan, but also in English-speaking countries and China.

研究分野：中国近現代思想文化史

キーワード：嚴復 『天演論』 社会進化論 清末メディア 清末思想 翻訳 トマス・ハクスリー 西洋経験

1. 研究開始当初の背景

研究の中心におくのは清末の思想家、嚴復である。嚴復は父親の病死によって中国医学を家業とした実家が没落したため、当時は唯一の出世の道であった科学コースからはずれ、新式造船工場附設の海軍学校に学んだことから、中国で最も初期のイギリス留学生となり、中国の学術基礎のうえに西洋近代のありようを理解することで、中国の生き残りをかけた問題を思索しえた数少ない知識人であった。近年では政治思想研究者による嚴復の政治思想や福沢諭吉ら日本近代の思想との比較に関心が集まるとともに、嚴復の古典的美文調による翻訳文体、そして読後に強い衝撃を受けたという魯迅をはじめ発表当時のほとんどすべての文学・思想関係の知識人への影響について研究が積み重ねられてきた。だが最重要の『天演論』(1898年)自体については、解読にはハクスリー原作における西洋思想とともに、儒学はもちろん、仏教・道家思想等を理解している必要があり、難解なだけに日本ではその翻訳の重要性が認識されながらも実現されてこなかった。

研究代表の坂元ひろ子は、これまで中国近代思想史研究、なかでも嚴復研究に大きな比重をおいてきた高柳信夫とともに、2013年に嚴復が初代学長となった北京大学で開催された「嚴復：中国と世界」国際シンポジウムに招聘された。坂元は嚴復の『天演論』テキストの二部構成の意味の解明から、西欧近代の問題とあまりにも早く深く触れつつ中国近代の現実に向き合わざるをえなかった嚴復の公私にわたる苦悩(病気のためにアヘン服用を続けたことがなおさら出世を妨げ、その不遇を嘆いたことや、家庭不和問題などに起因した)について論じた。一方、分担者の高柳信夫は嚴復における、ハクスリーとは対立することもあった社会進化論者スペンサー(『天演論』における嚴復のコメントでも称賛された)の受容、そしてスペンサーの日本と中国での受容における命運について論じた。それぞれの発表が各国からの参加者によるレビューを受け、それも共同研究の構想につながった。

また吉川次郎は嚴復『天演論』の存在が、訳語の取捨選択の問題も含めて、やはり清末の政治家・思想家として知られ、嚴復を高く評価していた梁啓超に対して強いインパクトを持っていたこと、さらにベトナム・ラオス・ミャンマーと国境を接する西南部、雲南省からの日本への清末留学生刊行の雑誌『雲南』でも嚴復の思想が浸透し、さまざまなバリエーションを生み出しつつ地方メディアに受容・拡散されている状況を指摘していた。他方、小野泰教も清末に初代駐英公使等を務め、外交高官として独特な西洋理解、中国批判をおこない、嚴復を高く評価した郭嵩燾を西晋の郭象『莊子』注の批判というレベルにまでほりさげて分析していた。

以上のような学術的背景があり、坂元は『中国近代の思想文化史』(岩波新書、2016年)を上梓しており、嚴復を思想文化史に位置づける作業を行ったところで、折しも2014年、中国で『天演論』の手稿本や各種テキストを含む『嚴復全集』(全10巻・付巻)がようやく刊行され、研究環境が整備されてきた。そこで嚴復の思想研究を深めつつ、資料収集にもあたり、梁一樞らによる韓国語訳(共訳、2008年刊)をも参照し、嚴復やその周辺の思想研究者による『天演論』翻訳をめざす研究会を組織する好機だととらえた。

2. 研究の目的

トマス・ハクスリーの著作(「進化と倫理 プロレゴメナ」1894年とロマネス講演「進化と倫理」1893年)の創造的ともいべき訳解に大量のノート・コメントを付した嚴復の『天演論』(1898年刊行)は社会進化論の紹介において、清末から中華民国期にかけて最も知られた書籍であった。嚴復と同時代の章炳麟も初めは嚴復の影響下でスペンサーの進化論の翻訳にあたり、政治活動で知られた梁啓超は『天演論』刊行にも尽力した。章炳麟の弟子筋で五四新文化運動時代に活躍した魯迅また胡適はもちろんのこと、毛沢東をはじめ中国共産党関係者であれ、蒋介石ら国民党系の人たちであれ、あるいは「第三勢力」をめざしたりベラル派であれ、その政治思想は初期における嚴復の進化論の洗礼あってこそそのものといえる。清末以降の思想・文学を中心に多方面にわたって大きな影響を及ぼしたといえ、東アジアの近代を考えるうえで等閑視するわけにはいかない。折しも中国においてようやく嚴復全集も刊行された段階で、ハクスリーの原書との対照はもちろんのこと、活字化されるにいたった手稿・未定稿・定稿のテキスト対照により形成過程を検証し、定本訳稿の作成を目標のひとつにおき、同時代の西欧近代そして中国の現実との嚴復の苦悩にみちた対話を解読し、さらにその清末知識人世界における受容過程を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

研究代表および分担者の各メンバーが専門に即した研究を個別に進める以外に、『天演論』関連資料の収集整理、テキスト対照・校勘作業を行うとともに、翻訳のための底本を前掲『嚴復全集』第1巻所収の「慎始基齋本」とすることとして訳稿作成・発信に向けた読み合わせを以下のように共同で行う計画をたてた。

- (1) 国内外（イギリス・中国）での資料調査・発掘・収集（これはコロナ禍のために、京都大学での部分的調査を除いて断念するほかなかった）。
- (2) 『天演論』テキストの対照、読解。あわせて、ハクスリー原作との異同を確認する。これには英語版ハクスリー原作のみならず、ジェームズ・パラディス、ジョージ・C・ウィリアムズ著『進化と倫理 トマス・ハクスリーの進化思想』（小林傳司・小川眞里子・吉岡英二訳、産業図書、1995）所収の日本語訳とも突き合わせてみる。
- (3) 定期的な共同研究メンバーによる研究会の開催（分担者の所属する学習院大学にて2ヶ月に一回程度開催。ただし2020年からはコロナ禍のためオンライン開催に切り替えた）・集中的研究合宿の実施（分担者所属の中京大学のセミナーハウスにおいて二度開催したところで、コロナ禍のため中断を余儀なくされた）。これらに可能な限り研究分担者の梁一模ソウル大学教授にも参加を求めた。途中からは研究会に民国政治思想を専門とする原正人中央大学准教授も参加、さらにコロナ禍までは希望する東京大学等の専門分野の大学院生も参加することがあった。
- (4) 関連する研究者を招いての一橋大学・学習院大学ワークショップの開催企画（これもコロナ禍により、延期を余儀なくされ、コロナ禍収束の2023年度内に翻訳刊行とあわせての開催を予定しており、その準備のための研究会も開いた）。

4. 研究成果

嚴復はアダム・スミス『原富』、ミル『自由論』（群己権界論）等の多くの翻訳に功績を残した。当時としては近代西欧思想と最も深い遭遇を果たしていたと言える。だがその西欧との遭遇から、人口爆発と生産力、進歩と人間の選別淘汰、公平・格差と自由という近代の諸問題に、当時の中国の現実を超えてあまりにも早く深く触れてしまった。英国からの帰国後の不遇のなかでこれら近代の諸難問を知りつつ、歩みの遅い中国の近代化を叱咤しなくてはならなかった嚴復にあってはむしろ悲劇であったといえる。初期の康有為らの楽観的な三世進化説は、過酷な競争・淘汰と弱者の退化・滅亡も想定する『天演論』で嚴復がむしろハクスリーの意図に反してまで称賛したスペンサー流の社会進化論にとって替われ、衝撃を与えた。この嚴復の仕事のなかでも抜きんでて大きな影響力をもった『天演論』をひとまずは当時の西欧と中国双方の思想史の脈絡において解説し、訳稿にまでこぎつけることができた。この作業によって、当時の嚴復を困惑させた中国の近代の問題が、超高速経済発展による現代化をとげた中国における近代の諸問題として照らし出されていることに気づかされる。それにより、これまでの視角からは到達できなかった当時の中国知識人の思索の次元に足を踏み入れることになり、中国の近現代を通じた問題をみるという特色、独創性を認められる。

この翻訳作業にあたっては、『天演論』に引用・言及されるまさに古今東西にわたる文献について、できうる限りの検索をおこなった。嚴復が本書で用いた中国の書物の引用・言及では、儒教・道教経典や仏典のほか、『史記』・『漢書』等の史書類も多いことがわかった。この点は嚴復の文体研究にも新たな光をあてる可能性もある。西欧近代思想面ではこれまで、スペンサー学者の山下重一「嚴復訳『天演論』（一八九八年）の一考察」上・下（『國學院法学』第38巻第3号、2000年12月・第38巻第4号、2001年3月）を参照するほかなかったが、中国近代思想研究者によるこの共同研究は中国思想面で山下研究の成果を大きく補填しただけでなく、西欧思想においても、ハクスリーの当該論文だけでなく、ハクスリーの論文集所収論文も参照されていることをつきとめたほか、新たに出典を見つけ出すことに成功しており、世界の『天演論』研究に役立つことになるであろう。

また『天演論』序文の著者、呉汝綸は、新しさを尊ぶ西学と古さを尊ぶ中学とを「一つに溶かしうる」のは嚴復しかいない、と絶賛したが、嚴復もそう自負していたはずである。晩年に嚴復が文化保守につながるのもこの点であろうし、この点にも留意するこの研究、また代表坂元の前掲『中国近代の思想文化史』に示された清末以来の長い東西文化論争の中にも嚴復を位置づけることができたのも独創的といえる。この『中国近代の思想文化史』が韓国語訳されて刊行されることが決まり、日本語版『天演論』の刊行とともにこの点でのより広範な学術対話が可能となるだろう。

さらには、ほぼ一世代ずつ異なる本研究者構成は、中国近代思想・思想史研究者数が存続の危機を案じさせるほどまでに急速に下降してきている日本の昨今にあって、この研究分野の世代継承・新展開の基盤づくりにも裨益するところがあると期待される。

翻訳はすでに各分担者からの訳稿はでそろっており、代表の坂元ひろ子と嚴復研究に最も力をそそいできた高柳信夫の監訳作業に入っており、近く脱稿のうえ、岩波書店から坂元ひろ子・高柳信夫監訳『嚴復 天演論』（岩波文庫）としての刊行が正式に決まっております、2023年5月末頃の脱稿、同年12月に刊行という予定が組まれている。目次・翻訳担当者は以下の通り。

呉汝綸序・嚴復自序・訳例言〔訳凡例〕（坂元ひろ子）

導論（全十八章）

一・五・十・十八章（高柳信夫）

二・七・十四章（吉川次郎）

三・八・十五章（小野泰教）

四・十一・十七章（坂元）

六・十二・十三章（梁一模〔ソウル大学〕…研究協力者）

九・十六章（原正人〔中央大学〕…途中より研究会参加）

本論（全十七章）

一・七・十三章（吉川）

二・八・十四章（小野）

三・九・十五章（坂元）

五・十一・十七章（高柳）

六・十二章（梁）

四・十・十六章（原・高柳・坂元）

この『天演論』翻訳刊行にあわせて、延期していたワークショップ開催を計画している（そのための研究会を2023年1月にすでに開催）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 下
2. 論文標題 西周与嚴復 以学問観、道德観为中心（中国語）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 王中江・張宝名編『語境和語義 近代中国思想世界的關鍵詞』上海人民出版社 所収	6. 最初と最後の頁 869-878
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子（弘子）著、郭馳洋訳	4. 巻 上
2. 論文標題 章太炎的个体思想和唯識仏教 中国近代的万物一体論的走向（中国語）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 王中江・張宝名編『語境和語義 近代中国思想世界的關鍵詞』上海人民出版社 所収	6. 最初と最後の頁 41-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子（弘子）	4. 巻 上
2. 論文標題 五四新文化運動与性別問題（中国語）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国社会科学院近代史研究所編『五四運動与民族復興-紀念五四100周年研討会論文集』社会科学文献出版社 所収	6. 最初と最後の頁 456-466
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 4号
2. 論文標題 哲学と翻訳 中国近代から考えて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 未来哲学（未来哲学研究所）	6. 最初と最後の頁 207-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 第77巻第1号
2. 論文標題 書評：小野寺史郎著『戦後日本の中国観 アジアと近代をめぐる葛藤』中央公論新社	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国研究月報（中国研究所）	6. 最初と最後の頁 41-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 第77巻第1号
2. 論文標題 書評：水口拓寿『中国倫理思想の考え方』山川出版社	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国研究月報（中国研究所）	6. 最初と最後の頁 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 第77巻第2号
2. 論文標題 書評：井ノ口哲也『道徳教育と中国思想』勁草書房	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国研究月報（中国研究所）	6. 最初と最後の頁 51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉川次郎	4. 巻 第76巻第12号
2. 論文標題 中国，数字をめぐる同時代史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国研究月報（中国研究所）	6. 最初と最後の頁 55-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 96
2. 論文標題 日本における中国近現代政治思想史研究の現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代中国（日本現代中国学会）	6. 最初と最後の頁 68-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 21
2. 論文標題 馮友蘭の直観主義批判について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語・文化・社会（学習院大学外国語教育研究センター）	6. 最初と最後の頁 63-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 36
2. 論文標題 疫病から近代を問う 中国の思想史において、「菌説」（小特集2 「中国近代と疫病 個人・社会・国家」）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 73-82、座談会91-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 36
2. 論文標題 梁啓超の『新文化』前史 一九一〇年代を中心として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 181-198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 1
2. 論文標題 梁啓超と近代中国の『革命』 『革命』の多義性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 「明治日本と革命中国」の思想史 近代東アジアにおける「知」とナショナリズムの相互遷流（楊際開・伊東貴之編著、ミネルヴァ書房）	6. 最初と最後の頁 199-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 76巻1号
2. 論文標題 中文日訳二題 その『悩ましさ』について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川次郎	4. 巻 3号
2. 論文標題 阮伯卓の日本滞在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中京大学国際学部紀要（中京大学国際学部）	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子（Hiroko Sakamoto）（Translated by Reiko Shinno and Kenji Hasegawa）	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 9, Nationalism and Gender	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Masako Kohama, Linda Grove eds., Gender History in China(Kyoto: Kyoto University Press & Tokyo: Trans Pacific Press Co.,Ltd) 所収	6. 最初と最後の頁 239-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子(弘子)	4. 巻 1
2. 論文標題 略探章太炎思想裡的社会主义因素以及其与日本人的交往	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 周東華・張君国主編『章太炎和他的時代』上海：上海人民出版社 所収	6. 最初と最後の頁 18-30
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 23号
2. 論文標題 漫画の国際性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アリーナ(中部大学)	6. 最初と最後の頁 460-466
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子(弘子)(王天馳訳)	4. 巻 1
2. 論文標題 第九章 民族主義与性別	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小濱正子、下倉涉、佐佐木愛、高嶋航、江上幸子編『被埋沒の足跡 中国性別史研究入門』台北：国立台湾大学出版中心 所収	6. 最初と最後の頁 249-272
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川次郎	4. 巻 1
2. 論文標題 『太平導報』における趙正平の思想 国民革命の中の政治と言論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中京大学国際学部紀要(中京大学国際学部)	6. 最初と最後の頁 39 - 52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 19
2. 論文標題 郭高燾の『周礼』「九両」解釈について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語 文化 社会 (学習院大学外国語教育研究センター)	6. 最初と最後の頁 101-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 8号 (通巻128号)
2. 論文標題 初期グローバル化はどこを向くのか 再想像のために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究中国 (日本中国友好協会『研究中国』刊行委員会)	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 18号
2. 論文標題 「学問」は何のために? 1920年代の梁啓超の「新文化」建設構想をめぐる一小論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語・文化・社会 (学習院大学外国語教育研究センター)	6. 最初と最後の頁 19-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川次郎	4. 巻 12巻2号
2. 論文標題 潘佩珠『天か帝か』の欠落部分について 20世紀東アジア史解読の手がかりとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際教養学部論叢 (中京大学国際教養学部)	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 73巻6号
2. 論文標題 書評 李暎東著 国際書院 『現代中国の省察 「百姓(ひやくせい)」社会の視点から』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 37 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 1
2. 論文標題 第3章 通史1 (民国初期) 『従帝制到共和』 (第1巻)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 川島真・中村元哉編著 『中華民国史研究の動向 中国と日本の中国近代史理解 』晃洋書房 所収	6. 最初と最後の頁 67 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 1
2. 論文標題 第11章 文化と思想 『文化、観念与社会思潮』 (第2巻)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 川島真・中村元哉編著 『中華民国史研究の動向 中国と日本の中国近代史理解 』晃洋書房 所収	6. 最初と最後の頁 204 - 215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 1
2. 論文標題 清末の漢文西洋薬学書におけるアヘンの記述について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 陳捷編 『医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界』 勉誠出版 所収	6. 最初と最後の頁 129 - 142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 17号
2. 論文標題 梁啓超と中国の「国粹」・「国学」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語・文化・社会（学習院大学外国語教育研究センター）	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 17号
2. 論文標題 江瀚『宗孔編』における儒教と国民国家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語・文化・社会（学習院大学外国語教育研究センター）	6. 最初と最後の頁 63 - 81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 -
2. 論文標題 （第9章）中国民族主義とジェンダー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小浜正子・小倉渉・佐々木愛・高嶋航編『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 239-258
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 20号
2. 論文標題 中国近代の優生思想、フェミニズムの躰きとたじろぎ 諷刺画「中国における山額(サンガー)夫人」一九三六年を読む	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『アリーナ』中部大学	6. 最初と最後の頁 592-599
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 坂元ひろ子(弘子)	4. 巻 327期
2. 論文標題 回憶梁漱溟先生 1983年拜訪木xi地寓所	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文匯学人(上海)	6. 最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 -
2. 論文標題 Chapter 9: The Impact of Versailles on Chinese Nationalism as Reflected in Shanghai Graphic and Urban Culture, 1919-31	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Zachman, Urs Matthias ed., "Asia after Versailles: Asian Perspectives on the Paris Conference and the Interwar Order, 1919-33," Edinburgh University Press (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 212 -236
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田雄二郎・馬場公彦・尾崎文昭・坂元ひろ子	4. 巻 32号
2. 論文標題 「文化大革命という亡霊」ラウンドテーブル	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国社会文化学会『中国 社会と文化』	6. 最初と最後の頁 46-85
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 -
2. 論文標題 (第三章) 伝統文化の過去と現在 1 ジェンダー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 光田剛編『現代中国入門』筑摩書房(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 131-154
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 6号
2. 論文標題 漫画の中の周作人	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『周作人研究通信』周作人研究会	6. 最初と最後の頁 19-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高柳信夫	4. 巻 16号
2. 論文標題 梁啓超の国家論におけるルソーおよびブルンチュリの位置	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『言語・文化・社会』学習院大学外国語教育研究センター	6. 最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉川次郎	4. 巻 10巻第2号
2. 論文標題 雲南同郷会と『Dian話報』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際教養学部論叢』中京大学	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 -
2. 論文標題 清末民初「道統」観念的討論及其特色：以嚴復的韓愈觀為中心	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 潘朝陽主編『儒家道統与民主共和』国立台湾師範大学出版中心 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 141-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 -
2. 論文標題 清末士大夫における二つの民認識について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 趙景達編『儒教的政治思想・文化と東アジアの近代』有志舎（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 81-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 21件 / うち国際学会 18件）

1. 発表者名 高柳信夫
2. 発表標題 第一次世界大戦の歴史的意味：梁啓超の「欧戦」認識を中心として
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター共同研究班「20世紀中国史の資料的復元」（班長：石川禎浩）研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小野泰教
2. 発表標題 日本の中国近現代政治思想史研究之問題意識及其展開
3. 学会等名 ワークショップ「近現代中国・台湾をめぐる政治思想史研究の現在」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 清末、もうひとつの進化論と「個」 梁啓超、章炳麟
3. 学会等名 未来哲学研究所 第2回シンポジウム「異なる近代の可能性 非西欧の視座から」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 近代思想文化史研究とジェンダー
3. 学会等名 一橋大学言語社会研究科韓国学研究中心 センター 第21回 韓国学フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高柳信夫
2. 発表標題 梁啓超と「新文化」
3. 学会等名 青山学院大学国際研究センタープロジェクト シンポジウム「中国新文化運動と大正日本」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂元ひろ子(弘子)
2. 発表標題 章太炎の仏道思想和身体、性、医学観
3. 学会等名 中国近現代青年学者読書班第17期(上海:復旦大学歴史系)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子(弘子)
2. 発表標題 略探章太炎思想裡の社会主義因素以及其与日本人的交往
3. 学会等名 「章太炎和他的時代」學術研討会(中国現代文化学会・中国社会科学院近代史研究所思想史室・杭州師範大学浙江省民国史研究中心・杭州市余杭区章太炎故居紀念館主催、杭州:杭州師範大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子 (Sakamoto, Hiroko)
2. 発表標題 Human Aspirations to Create More Challenges for Nature and Human Life
3. 学会等名 The 21th Century Human Value Forum 2019 (Korea Foundation of Cultures and Ethics) Human Values Academic Session1-3 “Era of Galloping Science & Technology and Human Values” (at Andong, Korea) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子 (弘子)
2. 発表標題 近代中国文化轉型与性別
3. 学会等名 「全球化視域下的近代中華文化轉型」国際學術研討会(中国社会科学院近代史研究所、歴史理論研究所、蘭州大学歴史文化学院) (於：蘭州：蘭州大学) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子 (弘子)
2. 発表標題 民国時期漫画裡的摩登女郎----三十年代的『時代漫画』、『抗戰漫画』与女漫画家梁白波
3. 学会等名 第七季“韓江講堂”(於：広東潮州：潮州師範大学) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子 (弘子)
2. 発表標題 “五四”新文化運動与性別問題
3. 学会等名 “紀念五四運動100周年”国際學術研討会(中国歴史研究院近代史研究所・中国現代文化学会) (於：北京) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 身体表象とジェンダー：中国近現代の女性の痛み of 文化史～「満州」体験から韓国と出会う日本人画家富山妙子のアートにみる植民地主義と女性の身体
3. 学会等名 延世大学校近代韓国学研究所人文韓国事業団(HK+) 第2回海外学者招請フォーラム(韓国原州)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元弘子(坂元ひろ子)
2. 発表標題 中国近代思想史中的性別意識 以譚嗣同、葉德輝為例
3. 学会等名 長沙：湖南師範大学中国思想史研究所・中国社会科学院中国近代思想研究中心(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元弘子(坂元ひろ子)
2. 発表標題 コメント: Roger T. Ames 「伝統天下理念、当今一帯一路倡議与变化的世界地緣政治秩序」
3. 学会等名 「什麼是天下:東亜語境」ワークショップ(Bergguen Institute)(北京:北京大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元弘子(坂元ひろ子)
2. 発表標題 章太炎思想与社会主義 以日本社会学者岸本能武太与日本社会主義、無政府主義者幸徳秋水為線索
3. 学会等名 馬克思[マルクス]主義在東亜:概念・文本・実践学术研討会(南京:南京大学国際會議中心)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 A New Cultural Silk Road Envisioned from the Viewpoint of Chinese Intellectual History
3. 学会等名 Imperative to Re-Imagine the Silk Road国際シンポジウム（昆明：雲南師範大学文理学院）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元弘子（坂元ひろ子）
2. 発表標題 從社会性別視角分析漫画裏的摩登女郎 - 以30年代漫画雜誌為主
3. 学会等名 セミナー（昆明：雲南師範大学文理学院）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野泰教
2. 発表標題 晚清外交官の西方觀与大同思想
3. 学会等名 19世紀末20世紀初東北亜知識の重構 以社会進化論与大同主義為中心 （韓国韓国・ソウル：延世大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野泰教
2. 発表標題 晚清の語言与政治秩序 關於言官の討論
3. 学会等名 語言、想像力、政治 東方民族思維与实践中的語言觀工作坊（台湾・台北：国立政治大学哲学系）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元ひろ子 (弘子)
2. 発表標題 康有為の大同思想及其形成過程: 以其思想資源井上円了の『星界想遊記』為主
3. 学会等名 「康有為与近代中国: 第七届中国近代思想史国際學術研討会」中国社会科学院中国近代思想研究中心・広東省佛山市人民政府 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元ひろ子 (弘子)
2. 発表標題 “大同”思想与其在歴史上及当代文明中的意義
3. 学会等名 尼山聖源書院2018尼山新儒学論壇: 儒学与東亜文化共同体 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 近代中国身体文化とジェンダー、その越境
3. 学会等名 一橋大学大学院言語社会研究科 韓国学研究センター国際學術シンポジウム: 東アジアの越境する文学とジェンダー (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 コメント: 共通論題「ロシア革命百年と中国」
3. 学会等名 日本現代中国学会第67回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 中国 秋瑾：女性解放と国家革命
3. 学会等名 フォーラム「テロとは何か 植民地の産物？」植民地文化学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小野泰教
2. 発表標題 書評：李金強・趙立彬・谷小水『從帝制到共和：中華民國的創立』（第1巻）潘光哲・歐陽哲生・張太原・簡明海『文化、觀念与社会思潮』（第2巻）
3. 学会等名 日本現代中国学会 関東部会定例研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 坂元ひろ子（弘子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上海：上海人民出版社	5. 総ページ数 277
3. 書名 中国近代思想的"連鎖"：以章太炎為中心	

1. 著者名 吉川次郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 350
3. 書名 近代中国南方のメディア言説 辛亥革命期の雲南・広西とベトナム／日本	

1. 著者名 小野泰教	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 清末中国の士大夫像の形成 郭嵩燾の模索と実践	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	高柳 信夫 (TAKAYANAGI Nobuo) (80255265)	学習院大学・付置研究所・教授 (32606)	
研究 分担者	吉川 次郎 (YOSHIKAWA Jiro) (00510778)	中京大学・国際学部・准教授 (33908)	
研究 分担者	小野 泰教 (ONO Yasunori) (50610953)	学習院大学・付置研究所・准教授 (32606)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	梁 一模 (YANG Ilmo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------